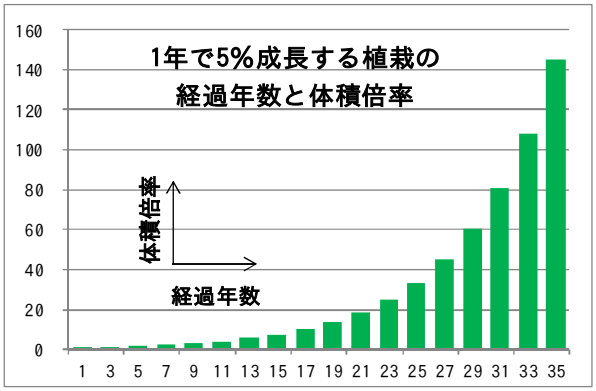
未来につなげる植栽管理計画

植栽委員長　伊藤和人

視点が変わればものの見え方は変わるもの。それは団地の植栽でも同様です。立派に育った高木が威容を誇り、鬱蒼とした緑が新鮮な空気を生産してくれる一方で、その直下に駐車場があれば、葉や樹液、虫、鳥の排泄物などに見舞われて大切な車が汚れてしまいます。近くに住めば日照が遮られることもあります。

植物は三次元的に成長するので、高さが 2 倍になれば体積は 8 倍、高さが 3 倍なら体積は 27 倍というように、指数関数的膨張をします。竣工後 30 年を超えたシーアイハイツの植栽はいま、ビッグバンの時期にさしかかっていて、何もしなければたった 1 年で新築当時の植栽の何倍もの量の植栽が増殖する状況に至っています。



計画的な植栽管理をしていかないと、いずれ私たちは愛する団地の植栽に圧し潰されてしまうのです。そしてまた、伐採と剪定だけに頼った植栽管理では、世代交代しなかった老木ばかりの団地になってしまうのです。

今年度の植栽委員会は、「植栽みらい」作業部会を中心に、将来のありたい姿を念頭に描きながら、未来最適な植栽管理計画をつくりあげようとしています。

植栽みらいが認識する団地内の重点課題区域は現在 9 箇所あります。その全体は平成 31 年度スタートをめざす第二次中期植栽管理計画で対処することになりますが、来年度＝平成 30 年度は先鞭として優先度の高い 3 区域の状況改善に着手します。

①北側駐車場は巨大化したクスノキ、ケヤキが電線に接触し、風雪による落枝のリスクが高まっています。
②東駐車場は 7 本のヒマラヤスギがランドマーク的景観を期待されつつ駐車場への落下物被害が軽視できません。
③Ｃ棟南ケヤキは太くなった幹が狭い地面に収まらなくなり、放置すると倒木の恐れがあると指摘されています。

これらはみな高木ゆえに剪定費用が高く伐採による経費節減効果が高いのですが、緑を失うことへの躊躇も根強いものがあります。ですから、伐採したあとに何をするか、ただ失うのではなく将来どういう景観にしてゆくかをセットで提案することが必要です。

植栽委員会が委嘱する東京ランドスケープ研究所の助言や住民の皆様のご意見を取り入れながら、当面の来年度計画を作り込んでまいります。